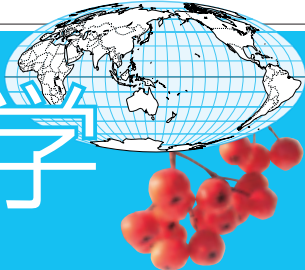


学報

学校法人 北海学園
北海商科大学
アジアの時代に、アジアを学ぶ。
Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.15
2013.12.20
発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

オープンキャンパス開催	2面
教務センター報告	
2年次所属学科決定、各種検定試験合格者	2面
短期交換留学生プログラム実施	2面
教職課程概要	2面
交換留学生出発	3面
外国語スピーチコンテスト	3面
特集「就活のいま!を語る」	4面・5面
キャリア・ガイダンスと就職支援	5面
留学だより	4面・5面
ゼミ訪問、研究のいま	6面
開発政策研究所再開、商学科合同特別講義	7面
サークルリーダー研修会	7面
photo gallery [北海商科祭・体育祭]	7面
後期公開講座開催	8面
研究生インタビュー	8面
浅羽祭、同窓会総会	8面
行事予定	8面
医務室から「二十代の健康 連載7」	8面

Topics 1

北海商科祭報告記

去る9月21日、穏やかな天気のもとで第8回北海商科祭が開催されました。会場には多数の模擬店が設営され、そこかしこからは威勢の良い呼び込みの音が響き、学生たちの意気込みを感じました。また商科祭ならではの国際色豊かな定番メニューに加えて、ホットドッグなどが新登場し人気を博していました。さらに今年は、校舎前に見事なイルミネーションが設置され、その企画力と実行力に感心しました。

一方、ステージでは賑やかで多彩な催し物が目白押しでした。まず吹奏楽サークルが見事な腕前を披露してくれました。恒例の「のど自慢」の予選と「\$DIP ダンスShow」の後には、生卵の早飲み「君はロッキーだ!!」が初登場し会場を沸かせました。さらにアーティストLIVE「フルーティー」や「情は友を呼ぶ」では掛け声や歓声が会場全体に広がりました。次いで「YOSAKOIソーラン」では、学園大『粋』が今年の優勝チームに相応しく



躍動感溢れる踊りを舞ってくれました。加えて、「おぼけ屋敷」は昨年同様に恐怖感満点でした。

日が傾いてきた頃、お笑いLIVEが始まり「5GAP」、「市原」そして「アンガールズ」の3組が登場しました。なかでも知名度抜群の「アンガールズ」(写真上)は、実行委員会のパンフ通りにグダグダ感を前面に出すコントが全開で、観客との妙な一体感が印象的でした。その余韻の中で抽選会が行われ豪華景品の当選者が発表されました。最後に実行委員長の挨拶があり後片付けをきっちり終えて大学祭の幕を下したのでした。正副2人の委員長や協賛企業の開拓・交渉に走り回った渉外部をはじめとして、各部の実行委員の学生諸君は猛暑の中で精一杯頑張ってくれました。ご苦労様でした。(田辺)



写真3枚とも北海商科祭 [7面にphoto gallery]

第8回北海商科祭を振り返って



北海商科祭実行委員会
委員長 商学科3年 浅井 静

今年で第8回目を迎えた北海商科祭も、今まで以上の盛り上げを見せ、無事に幕を閉じることができました。

今回の大学祭のテーマは、大学祭を成功させたい、という一人ひとりの想いが1つに重なり合うことで創りあげられる最高の大学祭にしたい、という想いを込め、「Symphony～すべての想いが重なる時～」といたしました。

また、昨年に続き行なったお化け屋敷では、昨年以上の盛り上げを見せ、更に多くの方々に喜んでいただくことができ、嬉しい限りです。

他にも、新たな企画であります、「生卵の早飲み」や「仲良し対決」などのステージ企画、初の試みとなります、ハートの花壇を使用したイルミネーションの装飾など、いろいろなことに挑戦することができ、同時にご来場の皆様にも様々な企画を楽しんでいただけたかと思います。

最後に、私はこの大学祭で委員長という経験を通し、自分1人では何もないこと、そして仲間の大切さを学びました。みんなの想いが1つに重なり合ったからこそ、このような素晴らしい大学祭にできたと思っています。次の大学祭を担う後輩たちには、ぜひとも「仲間」を大切にしていってほしいと思います。

Info 1

第2回高校生懸賞作文の募集と入賞者決定

北海商科大学主催第2回高校生懸賞作文を募集しました。今年度の募集期間は8月下旬から9月末までという夏休み明けの短い期間だったのにもかかわらず、道内各地から応募がありました。この懸賞作文の募集は、高校生の鋭い観察眼で現代の市場、マーケティングに関心を持って頂くことを趣旨として昨年度より実施しています。

第2回の募集テーマは、「①日本も含めアジアの人たちに広く薦めたい私のまちの観光スポット」「②日本も含めアジアの人たちに広く薦めたい私のまちのグルメ」「③日本も含めアジアの人たちに広く薦めたい私のまちのお土産」のうちどれか一つを選んで応募していただきました。厳正なる審査の結果、入賞者は下記のとおり決定しました。

表彰式は12月7日に本学で開催し、入賞者には表彰状と副賞(図書券)が

贈呈されました(写真)。表彰式のあと、審査講評と懇親会が和やかにおこなわれました。

来年度も実施予定ですので、お知り合いの方に高校生がいらっしゃいましたら是非ご案内ください。(橋元)



入賞者一覧 [敬称略]

順位	氏名	在学高校名	学年
1位	石川 菜月	北海道滝川西高校	3年
2位	秋場 啓祐	北海道浦河高校	3年
2位	西 輝	北海道浦河高校	3年
2位	渡部 正也	北海道浦河高校	3年
3位	櫻間 恒生	立命館慶祥高校	3年

Topics 2 オープンキャンパス開催される

今年度のオープンキャンパスは、春の6月、夏の8月、秋の9月の3期にわたり、朝の10時から夕刻4時までの時間帯で開催しました。

全てのオープンキャンパスを通して、はじめに本学の「学部・学科説明」を行い、続いてスライドを使って「本学の特色（カリキュラム・大学生活・就職状況等）や入試制度」などについての全体説明を行いました。また、今年度からは毎回のオープンキャンパスにおいて必ず実施していた「語学体験」に加え、4日間の全てに「模擬講義」を実施し、来学者に本学での学びの一端を体験してもらうことができました。

1回目の6月23日は、「北海道の未来を拓く新幹線の利用」と題して佐藤馨一教授が、2回目の8月6日は「ちょっと不思議なスマホ・ケータイ事情」と題して細野昌和教授が、3回目の8月7日は「観光地の魅力を探る～入りやすい店と入りにくい店～」と題して田辺隆司教授が、4回目の9月29日は



第2回オープンキャンパスでの全体説明会

『「八重の桜」が東日本大震災被災地に経済の活性化をもたらす』と題して中鉢令兒教授がそれぞれ専門分野に係る内容をコンパクトにまとめて紹介しました。参加者からご協力をいただいたアンケートでは、いずれの模擬講義についても大変好評でした。また、学生の協力を得て行う「先輩によるアドバイス」や「キャンパスツアー」、担当の教員が一人一人の参加者の質問や要望に丁寧に対応する「個別相談コーナー」にも多くの参加者を得ることができました。

本学のオープンキャンパスは今年度で9回目となります。毎年、ご参加された皆さんからのアンケート結果などを活用して、内容の充実に努めてきているところですが、急激な少子化が進む中であって、今後ともより一層の改善を図って参りたいと思います。

(堂徳)



第2回オープンキャンパス受付

Report 1 教務センター報告

後期ガイダンス・履修登録終了

平成25年度後期のガイダンスは9月13日午前に1年次、午後に2年次、9月17日午前に3年次、午後に4年次を対象にそれぞれ実施しました。とくに2年次ガイダンスは所属学科が決定し、専門ゼミナールの履修が開始されるこ



4年次後期ガイダンス

2年次所属学科決定

平成23年度入試から学部入試に変更したことにより、2年次の第4セメスター開始時に所属学科を決定することになりました。今年度は昨年に続き2度目の学科決定作業となります。昨年度と同様、学生の希望を最大限に考慮し、各学科の定員を勘案して、極端に志望者が偏った場合は学業成績を基準として所属学科の決定を行うことを周知しながら作業を行いました。3月下旬の新2年次教務ガイダンスで所属学科決定までのスケジュールと選考基準を確認し、両学科の教育内容を説明しました。5月21日には第1回目の学科選択に係る説明会を実施し、6月11

各種検定試験合格者（中間報告）

各種検定試験合格者について、後期に実施されるものもありますが、合格者数を報告します。中国語検定(HSK)は上級資格である6級7名、5級10名が合格しました。4級と3級合わせて51名はさらに上級合格を目指しています。韓国語能力試験(TOPIK)は上級資

ともあり、学科ごとにゼミナール担当教員が概要を説明する時間を設け、学生諸君の進路と学びたいテーマについて最適なゼミを選択できるよう配慮しています。3年次ガイダンスでは就職活動が本格化する時期でもあり、キャリア支援センターからサポート内容とこれからのスケジュールについて詳細な説明が行われました。

ガイダンスに続き、9月17日から9月20日にかけて学年ごとに科目履修登録を実施しました。9月24日には全学年を対象とした履修登録訂正の機会を設け、遺漏のない科目履修登録が完了しました。

日から6月20日にかけて専門ゼミナールの見学会を実施し、7月1日に第2回目の説明会を行い、所属学科決定申込用紙を配布しました。学生の希望に沿って、2年次生172名のうち、商学科114名、観光産業学科58名の所属が決定し、9月13日のガイダンス時に発表しました。



5月21日に行われた学科選択説明会

格である6級5名、5級7名が合格しました。1級から4級までの合格者は48名で、中国語と同様、さらに上級合格を目指して研鑽を重ねています。このほか、情報処理に関するMOS(エクセル)53名、MOS(パワーポイント)26名が合格し、それぞれ受験者全員が合格しました。(柳川)

Report 2 2013年度短期交換留学生プログラム実施

本年度も、交流提携校である中国山東大学威海校から、引率教員1名と学生5名を短期交換学生として受け入れました。

一行は7月5日に来日し、北見キャンパスでは山栄先生の日本語研修の他、現地の講師の方々から日本の生活文化について学び、さらに8月末から中国へ留学する日本人学生とも交流しました。7月16日からは、札幌で日本学の講義だけでなく北海道新聞社などの視察なども行ないました。

報道によると、2012年の中国人海外留学生総数は39万9600人で、今年には45万人に達すると予測されており、隣国の学生たちの意欲が数字となって伝わってきます。

現在、世界各国が外国人留学生の受け入れに力を入れています。たとえば中国においては2020年までに50万人という外国人留学生の受け入れ目標を設

定し、韓国においても同様に20万人の目標を設定しています。さらに欧米各国も留学生獲得のための海外事務所をたくさん設定し、留学のための支援を整えています。日本でも同じように2020年までに外国人留学生を30万人受け入れる目標を掲げていますが、残念ながら2012年5月1日現在で13万7756人にとどまっています。

留学生の受け入れは、国際交流による相互理解と友好親善を増進させる役割を果たすだけでなく、教育・研究力を向上させて人材育成を図る重要な役割を持っています。本学では、相互交流を基本に、今後とも学生の派遣と受け入れに力を入れていきたいと考えています。

山東大学の短期交換学生は、25日の修了式を経て7月31日に帰国しました。

(加藤)



写真上左・右：短期交換留学生修了式、写真下：短期交換留学生と中国・韓国の交換留学生（長期）と教職員

Report 3 教職課程の概要

本学の教職課程では、高等学校教諭Ⅰ種免許状（商業科・公民科）の2種類を取得することが出来ます。

現在、一番多い16名の2年生の他、各学年10数名が教職で頑張っています。本学の教育課程では、2年生から教職を希望することも可能であり、留学をする学生も多くいます。教職課程を希望する学生の動機は様々ですが、やはり、一番多いのは、影響を受けた教師の存在です。人に教えたり、伝えるスキルは企業で必要とされているプレゼン能力としても身につきます。

卒業生で、高い倍率の中でも公民で現役合格者が誕生し、公立高校の教師として頑張っています。また、期限付き教諭や私学の教員として教壇に立っています。本学の商業科教員については、前身の北海学園北見大学のⅠ期生が昭和56年に採用されて以来、86名の卒業生がおり、期限付き教員などを含めると100名程度の卒業生が、全道各地の高等学校教員として活躍しています。この数字は、道内の高等学校商業科教員の5～6人に1人が本学の卒

業生であることを意味しています。

本学では、普通科高校を卒業した学生のニーズに応じて、公民科の免許状を取得する学生のニーズが高まっています。公民科免許状を取得しておく、後に、科目履修等の機会を得て地歴科免許状や中学校社会教員への道を開くことも可能となります。この原理は、商業科免許状をベースして、情報の道が開かれることを意味します。

教員採用が狭き門となっている現状を考えると教員になれる人は限られますが、ぜひ、大学時代にしか成すことのできない教職課程を履修し、広い視野に立って、人間的な成長を図ってもらいたいと願っています。(大友)



教職課程履修の皆さんと大友秀人教授

Topics 3 2013年度交換留学生出発

北海商科大学では、本年度も多くの学生が海外留学へ旅立っています。

まず、4月からのセメスターにむけて、中国山東大学威海校に2名、韓国大田大学校に3名が1年間の留学に出発しました。そして、1年生の海外語学留学プログラムでは、中国の煙台大学へ8名、山東大学威海校へ10名、韓国の大田大学校へ9名が派遣されました。

提携校に派遣される1年生は8月末に相次いで出発しました。前年度は日本と中国や韓国との関係が緊迫化した中での出発でしたが、本年度は穏やかな出発となりました。

日本と中国や韓国の政府レベルでの関係は硬直化したままですが、民間レベルでの交流は堅実に行なわれています。たとえば、9月までの累計訪日外客数（日本を訪問する外国人数）は、773万1400人となり、目標とする1000万人についても達成する可能



韓国へ出発した派遣交換留学生



中国へ出発した派遣交換留学生

性も出てきています。

これからも訪日外客を増やしていくためには、産官を挙げて誘致の取り組みだけでなく、「アジアの時代にアジアを学ぶ」という教育目標をもつ本学の学生が、実際に相手国に行き、いろいろな体験をすることによって得た知識や経験が間接的であっても大きな力になることは間違いありません。

百聞は一見にしかずとは良く言われる言葉ですが、自分の目で実際に「見る」ことを、ICTの発達により実際に近い映像や情報で「見た」ことに置き換えがちになっているのではないのでしょうか。やはり実際に行って見るのがなによりも重要と思います。その点でも留学は、学生時代にできる本当の勉強であるといっても過言ではありません。そのことを忘れずに、それぞれのプログラムを受講して実りの多い留学生活になることを期待しています。（加藤）

Topics 5 2013年韓国語スピーチコンテスト

本学の学生が韓国語弁論大会に出場

去る10月12日(土)、北海道立近代美術館講堂で第15回北海道韓国語弁論大会が（札幌韓国教育院・北海道韓国学園主催）が開催されました。今大会には、道内各地から12名の弁士達が韓国語のスピーチで競い合いました。本学からは2年生の津坂静香さん（商学科）と同じく2年生の岩尾ゆき

のさん（観光産業学科）が出場しました。津坂さんは「お母さんのキムチ」、岩尾さんは「たくさんの出会いを通して」というタイトルで発表を行いました。津坂さんの発表はお母さんの漬けた手作りのキムチに関する内容、岩尾さんの発表は楽しかった韓国留学に関する内容で、見事奨励賞に輝きました。また、12月8日には東京の韓国文化院・ハンマダンホールで駐日韓国大使館・韓国文化院主催による「話してみよう韓国語」東京・学生／一般大会・全国学生韓国語スピーチコンテスト」が開催されました。この大会には1年生の北林育子さんが予選を突破して出場、「私が勝ちたい人」というタイトルで発表を行いました。弁論の内容は、語学を学ぶにあたって打ち勝たなくてはならないのは自分自身である、ということ語った内容で、見事奨励賞に輝きました。（水野）



北海道韓国語弁論大会にて

Topics 4 2013年中国語スピーチコンテスト

本学の学生が中国語スピーチコンテストで最優秀賞、全国大会へ

10月27日に実施された2013年度全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会（北海道日中友好協会主催）に、本学から中井龍君（観光産業学科4年）、塚本智明君（商学科3年）、高木郁香さん（商学科3年）、平野結実さん（商学部1年）が出場しました。本学の出場者は激しい競争の中で、中井龍君が弁論部で最優勝賞、塚本智明君が朗読部で三位に輝きました。中井龍君は、都



中国語スピーチコンテスト北海道大会にて

道府県の最優秀者の中からさらに選ばれた10名の代表の一人として、2014年1月12日に開催予定の全国大会（東京）に出場することになりました。

中井龍君は、今年5月の「漢語橋」世界大学生スピーチコンテスト北海道予選大会で準優勝の好成績をあげ、中国で開催された本戦を観戦してきました。これで、本学の学生が5年連続世界大学生の中国語の競技を見学したことになります。

ここ数年、「漢語橋北海道予選大会」や「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」の出場者は、ますます高いレベルになり、北海道において中国語の教育が充実してきたことが伺えます。これから本学の中国語教育も、もっと高レベルに向かって頑張らなければならないと痛感しました。今後、多くの出場希望者が現れることを心より望んでおります。（蘇）



中井 龍 君 ●最優秀賞原稿 [日本語訳] 『私の中国夢』

私の中国夢は中国の中西部において、北海道の農業技術の海外輸出に携わり、現地の農業発展に貢献することです。このような夢を抱くようになったのは中国人から愛されている砂漠研究家遠山正瑛教授と中国留学期間中に出会ったある老人の影響があったからです。

2011年の夏、私は北海商科大学の教授陣とともに内モンゴルエンゲベール砂漠での植林活動に参加しました。私は砂漠を一度も見ただけで、中国の砂漠化の程度がどの程度か知りませんでした。私が想像していた砂漠は一面砂で、人家が無い所でした。驚いたことにエンゲベール砂漠には緑が生い茂っていました。その後、私の担当教授からある鳥取大学の教授が86歳のとき「砂漠の緑化こそが世界平和への道」であると考え、エンゲベール砂漠で植林活動を始め、13年かけ世界中のボランティアとともに334万株の木を植えたということを知りました。遠山先生の偉大な功績は私に深く影響を与え、私も北海道の農業技術の輸出に携わり、現地の農業の発展に貢献したいと考えるようになりました。

中国の発展にはこのような志を持つ人が必要だと考えます。それは私が中国山東省済南市に留学中の2010年11月の肌を刺すような風が吹く夜のことでした。宿舎へ戻る途中、私は偶然、道端で60歳位のおばあさんを見かけました。おばあさんは非常に貧しい装いで、冷たい路上に助けを乞うような姿で座っていました。私は宿舎へ戻った後、そのおばあさんの助けを乞うような姿を思い出し、何かできることはないかと考えました。そして宿舎からコート一着を持ち、途中で食べ物を買ひ、おばあさんを見かけた場所へ行きました。

そして私はおばあさんに、夕食は食べましたかと聞きました。おばあさんは丸一日食べていないと答えましたがおばあさんが話した中国語は標準語ではなく、訛のきつい方言でした。日本の東北地方の方言のようでした。私は持ってきたものをすべておばあさんに手渡しました。私はおばあさんに「なぜここにいるのですか」と尋ねました。彼女は「行くところが無い」と答えました。それから彼女の身の上話を始めました。おばあさんの話によると彼女は山西省の太原近郊の農村出身で、農業で生計を立てていましたが干害のため、作物が取れなくなり、経済状況が悪化していきました。さらにおばあさんの親戚が病に倒れたことにより、多額の医療費が必要になりました。おばあさんは仕方なく、済南市で助けを乞うようになりました。そのとき私はとてつもなくわびしい気持ちになりました。それから毎週水曜日の夜、おばあさんのために何かできないかと考えながら交流するようになりました。

この経験から中国の中西部の多くの地域が援助を必要としているということを感じました。もし北海道の農業技術がこのような地域に普及すれば、彼らの生活環境を改善されていくのではないかと考えます。

このような夢を実現するのはかなり先の話ではありますが、諦めずに遠山正瑛さんのように「砂漠の緑化は世界平和への道」という志を持ち、いつか私の中国夢を実現したいと思います。



津坂 静香 さん ●入賞原稿 [日本語訳] 『お母さんのキムチ』

「シズカ オディカ！ミヨッシヘ ワー」今日も母は出かける私に、3階の窓から大きな声で叫びます。私のお母さんは韓国人です。母は父と出会って結婚をし、日本語もわからない状態で日本にやってきました。私の家族は両親と祖母、そして長女の私と妹、弟2人の7人家族で、家では母の「アイゴー イセキヤッ シックロ」の声を聴きながら、幸せに暮らしてきました。しかし私が高校3年生の時、父が突然亡くなってしまいました。天地が引っくり返るような衝撃を受け、ただ茫然としていました。何が何だかわからない状況の中「いつまでも泣いていられない、みんなで力を合わせて生きていかなきゃ」と母は1週間後には気丈に仕事を始めました。

母の仕事はキムチ屋さんです。なので、我が家の食卓はキムチチゲ、キムチ炒め、キムチチジミなどキムチが主流です。世間では韓国料理が人気で、友人たちも羨ましい

と言いますが、さすがに毎日だと家族はあきあき。実は弟と祖母はキムチがあまり好きではありません。特に弟は辛い物が嫌いです。そんな弟も母の料理はすっかり全部食べます。何故なら母の料理には、母の涙と愛情が詰まっているからです。

母は家事も仕事も全部一人でするし、弱音を吐きません。祖母は「母は男よりも働いている」といいます。母がいつも疲れていることは私たち兄弟も知っています。

私は母の仕事をできるだけ手伝うようにしているので、キムチの仕事がどれだけ体力を使い大変な仕事かわかっています。母のキムチ屋さんありがたいことに予約や注文が入るので、たくさんのキムチを作ります。週末になると母はキムチをもって市内はもちろん函館や、北見へも車で売ってまわります。だから週末、母はいません。もともとは父と二人で走った道を、一人で運転しているのですから

寂しくつらいと思います。たまには私に弱音をはいてほしいのに母は「大丈夫、家のこと頼むね」と出かけていきます。私にだけでも愚痴ってくれたらよいのですが…

母は私たち家族にとって、誰とも比べられないくらいとても偉大で素晴らしい人です。私は母のことを誰よりも尊敬しています。とてもたくましく、母親の鏡だと思います。私にはまだハッキリとした将来の夢がありませんが、母のように子供を全力で愛し、たくましく、尊敬されるような母親になりたいです。そして母のおかげで大好きになった韓国語をこれからも頑張っていきたいです。

私たち兄弟は、母の作るキムチが世界で1番好きです。お母さん無理しないで健康に注意してね。お母さんいつも感謝しています。サランヘヨ。

特集 就活のいま!を語る



写真左：学内就活イベント「Live Voice」、写真右上・下：合同企業説明会。（全て北海学園大学との合同開催）



水野●皆さん厳しい就職状況の中、内定を決められたそうですが、今日は皆さんの後に続く人たちのために体験談を聞かせて下さい。皆さん内定を勝ち取った勝因は何だったと思いますか。

斉木●決して諦めないということでしょうか。消防士になるのが子どもの頃からの夢でした。一般企業も社会的な貢献はあると思うのですが、人間の命に関わる事はやはりどんな場面に置いても正義になると思い、身近な社会に貢献したいと思いました。それを最後まで諦めないということでした。

水野●アピールポイントはどんなところですか。学校生活で何を頑張ったかは聞かれましたか。



聞き手
水野 俊平 教授

古小高●理想の高さと人当たりが良いとか、そういう内面をアピールしました。サークルの副代表をやっていたので、パイプ役になっているいろいろな物事を進めたことを強調しました。

小原●私は自分の好きな事を追求していったところです。最初は観光業界しか見ていなかったんですけども、最初に落ちた時に、早めの切り替えをしました。自分はどのような事をしたいのか、やりたい事をとことん細かいところまで追求しました。

葛巻●私は内定が決まったのが6月頃でした。私は旅行するのが好きで、まずその旅行が本当に好きだと言う気持ちを伝えました。旅行をするうえで実際に何をやりたいのか、「海外での外国人の三カ国旅行というのをもっと手軽に簡



●葛巻 悠 君
商学科4年(札幌西陵高校出身)
株式会社エイチ・アイ・エス内定【旅行会社】
ウェブエントリー約80社、エントリーシート約30社、面接約20社／リクルートスーツ2着

単に出来るような仕組みを作りたい」と思いました。そのために海外の支店で勉強をしたり、いろいろな体験をしてみたいと伝えました。将来のやりたい目的みたいな事を何か見出せないといけないのかと思いました。それをしっかりと伝えたいです。

水野●本学での学び、就職に向けた取り組みは役に立ちましたか？

斉木●とても役立ちました。教職課程では教育実習だけではなく、様々なボランティア活動も行ないました。先生方や教職課程を通して下の世代とも交流できたこともあり、コミュニケーション能力がついたと思います。大学経由で経験したインターンシップでも、接客を通して人と関わることに能力を伸ばせたと思います。面接の際に「何か特別な事をやったの、教職課程取ってどうなの」と聞かれる事も多かったのですが、それにスムーズに答えられたのは大きな事だと思いました。公務員志望でしたが、民間向け就職ガイダンスが早期にあり参加できたことが良かったです。身だしなみ指導も民間でなくても役に立つことでした。4年生になり、



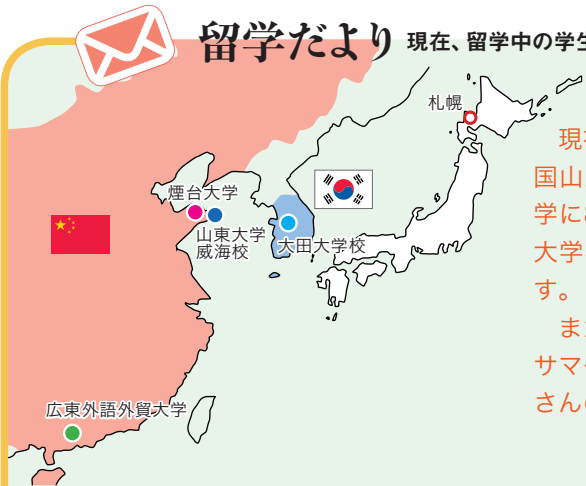
●斉木 賢介 君
商学科4年(札幌第一高校出身)
札幌市消防局採用
公務員志望で公務員予備校に通う

公務員予備校にも通いましたが、大学でやってきた事が重要だったのかなと思いました。

葛巻●私もかなり役立ちました。面接練習もそうだし、グループディスカッションでも、何回もやらないとなかなか身につかないと思います。どういう答えを出せば良いのか、話の進め方とかいろいろ教えていただきました。ガイダンスで最初のやるべきことをしっかり教えてもらい、筆記試験の練習、テストなどを受ける機会を与えてもらったことはとても役に立ったと思います。

小原●私も凄く役立ちました。大学でおこなったSPIとかをきっかけに勉強もし始めたし、面接の対策というのはすごく大きかったと思います。どういうことを聞かれたらどう答えるか、

留学だより 現在、留学中の学生から便りが届きました。



●太田 茉緒（商学部1年）

韓国に来て約2か月がたちました。日本に帰るまで残り49日です。空港でみんなとお別れしたのが昨日のようです。

初めて大田に来た時、山に囲まれていて、しかも学校が想像以上に大きくてびっくりしました。最初は自分たちの教室に行くだけでも大変でしたが、今は慣れて学校だけでなく、近所のお店や、バスで行く銀杏洞(ウネンドン)という繁華街にもいけるようになり、楽しい日々をおくっています。

授業も最初は韓国語ですべて進むので本当に大変だったし、不安しかありませんでした。でも先生方がゆっくりわかりやすく話してくれるおかげで、大分聞き取れるようになり、ついていけるようになりました。中間テストも終わり、これから期末テストがありますが、それが終わったらもう学校が終わって、冬休みに入るから悲しいですが…。

初めての学校行事はFOODFESTIVALでした。踊ることになった7人は毎日練習して、2人は当日に出す食べ物の用意を頑張りました。この時からいろいろなところで5人が代表で踊るようになりました。それから学祭があり、ここでもいろいろな先輩と交流できて楽しかったです。最後の行事、学科の学術祭ではまた5人が踊り新しい曲に挑戦して2曲踊りました。初めて演劇部の演劇も見ることができ、先輩たちの歌も聴けて、本当にいい思い出になりました。残りの生活も楽しく過ごしたいと思います。



大田大学校の新入生歓迎合宿（9月7日）

現在、本学学生は提携校である中国山東大学威海校に12名・煙台大学に8名が、韓国には提携校の大田大学校に12名がそれぞれ留学中です。

また、中国広東外語外貿大学でのサマーセミナーに参加した石見綾子さんのレポートを紹介します。

●高島 直人（商学部1年）

8月28日に新千歳空港を出発してからあつという間に月日が経ち、早くも短期留学が終盤に差し掛かりました。思い返すと当初の自分がいかに不慣れた生活をしていたかが分かります。しかし先輩方や仲間のサポートもあり徐々に慣れていきました。慣れてから分かったことは、贅沢な要求をしなければ例え国が変わろうと快適に過ごせるようになるということです。特に威海は



煙台市の蓬萊閣で



威海の動物園で

●生川 幹久（商学部1年）

楽しかったこと、初めの頃は、知らない単語ばかりでしたが月が経つごとに中国人の話していることが解るようになってきて、会話も少しできるようになり中国人の友達が増え、友達と遊ぶのが楽しくなってきました。次に私たちは威海にある動物園に行ってきました。

威海にある動物園は中国にある動物園の中でも規模が大きく、全部見終わるまでに三時間はかかりましたが、日本では見られない動物がたくさんいてとてもいい思い出になりました。学んだこと、中国で改めて予習と復習の大切さを知りました。自分たちの中国語はけてペラペラに話せるわけではないので、予習をしないと授業についていけないです。復習はその日進んだ本文と単語を覚えないと理解できないし、中国人の友達と話すときに使わないといけないので毎日頑張っています。驚いたこともあります。それは、学校の大きさです。学校の大きさは中国に来て初めて感じました。さらに図書館や食堂の数、生徒の多さ、物価の安さにも驚きを感じました。中でも一番驚いたのが、食べ物です。食堂の料理は値段が安いですが量も多いです、しかし、油も多いので食べすぎないように気を付けています。

最後に三か月が過ぎ、まだまだ自分の中国語に満足はしているわけではありません。残りわずかですが、悔いのないように日々成長できるように頑張っていきたいと思います。

そういうのを身につける事が出来ました。
葛巻●学内で行われた企業説明会は、一度に沢山の企業の話聞ける場なので、すごく情報収集に役立ちました。
古小高●僕も学内の企業説明会で、北海商科大学や北海学園大学にしか来ない、二大学から沢山取っているという企業があったので、そういうところを絞って受けました。そういう情報を教えてくれたのはとても役に立ったと思います。

●古小高 稜 君

商学科4年(旭川東栄高校出身)

三幸グループ内定【専門学校、人材派遣運営企業】
ウェブエントリー約50社、エントリーシート22社、面接10数社／リクルートスーツ1着



水野●面接を受けるにあたって、特別な準備はしましたか？

齊木●面接の練習はダブルスクールで予備校に行き受けたので、志望動機の一回だけ受けさせてもらいました。4年生ではもうほとんど単位は残っていないかったので、その時間を予備校に充てていました。主に公務員の筆記試験対策です。身だしなみについては、靴磨きは必ずしました。

葛巻●インターンシップを通じて実際に本当の職場の雰囲気というのもわかりますので、それは役立ちました。自己分析に時間がかかってしまったので、あまりかけ過ぎずにどんどん進めていけたらもっといろいろ沢山の企業を見れたと思います。自分が何に向いているか、なかなか焦点が定まらなかったところがあります。最初は銀行など金融系だったんですけども、建築系に行ったり、今のように旅行に行ったり、ちょっとぶれてしまった点もあったので、早めに自分探しをしておいた方が良いでしょう。
古小高●自分の言いたいことをしっかり頭の中に入れて、上手くいかににしてもちゃんと自分のアピールポイントを言えるよう頭に入れて面接に挑むことです。自己分析では長所がなかなか見つけれなくて、逆に短所はすぐに見つかったらというところがあって、それでも

自分を励ましながら自己分析をしました。住宅メーカーの面接だったのですが、突然「横にあるホワイトボードを私に売ってください」って言われて、その時はさすがにびっくりしちゃったんですけど。そういう少し変わった面接もあったのですが、あんまり焦らないで笑いに変えたりとか、しっかり受け答え出来るような柔軟性が求められると思いました。
小原●私は皆に負けない何か、企業研究を誰よりもやってから面接に挑もうということをしてしました。企業研究を誰よりもやることで、会社の面接官の方達にいろいろなことを突っ込まれても、自信を持って伝えられたのがすごく良かったと思いました。今の内定先だったのですが、その面接官の方には「どこまで研究してきたの」って声をかけていただいて嬉しかったです。

●小原 有加里さん

商学科4年(札幌第一高校出身)

株式会社シティヒル内定【アパレル企業】
ウェブエントリー約70社、エントリーシート約10社。説明会はジョブカレッジなど含め20～30回／リクルートスーツと別にアパレルでは私服着用



葛巻●内定先のエイチ・アイ・エスの面接の時でしたが、質問が本当に多くてひとつのことに答えたら、そこからどんどん深堀りされてしまうので、通りいっぺんのことだけではなく、幅広く答えを持っておかないといけないと感じました。なかなか答えられない人が沢山いました。

水野●そろそろ就職活動も峠を越えているところなんですけども、まだ決まっていな人もいます。頑張っている同級生にこうすれば良いとか、こういう目標を持ってやれば頑張れるというようなところを一言ずつお願いします。
齊木●僕も悩んでゴールが見えなかったのですが、スムーズにはいかないと思います。自分は8月で決まったんですけど8月に決まるとは思っていないくて、まだまだ長い戦い、卒業までに決まれば良いと思っていました。悩み過ぎずと言いますか、全力なんですけど悩み過ぎな

いで頑張って欲しいと思います。
葛巻●自己分析もそうですが、自分をもっとよく知って、自分に合う企業というのを探せば絶対に見つかります。目先を変えて、ひとつにこだわらず、もう一度最初から見直してみると、意外と知らなかったところ、知らなかった企業が見つかったりすると思います。
古小高●なかなか決まらない時に、焦る気持ちですが、自分はこういう業界に向いていないだろうと思ったりして受けなかったのですが、良い意味でプライドを捨てるような開き直った感じになれば、少しは気も楽になって、自然の状態です就職活動、面接とかに挑めるのかなと思います。プラス思考になって視野を広げ、良い意味で開き直るのが大事なかなと思います。
小原●私も視野を広げるというのはベストだと思います。ひとつの業界しか見ていなかったんですが、沢山落ちてしまってもう駄目かも知れないと思った時に、少し視野を広げたことによって内定をいただきました。一つのことこだわらず、もっともっといっぱい視野を持って挑む事が大切だと思います。

水野●お話を聞いていると、今は1年生の頃から就活が始まっていると思った方が良いでしょう。では来年、再来年から頑張らなきゃいけない後輩にひとことずつお願いしたいと思います。
葛巻●ひとつでもいいので、何か資格を持っていれば会話のきっかけになります。自分にとってもマイナスには絶対ならないです。
古小高●何かひとつ、授業とかアルバイト以外にボランティアだとか何かチャレンジしたり、皆がやっていることプラス一つというのを経験と



北海学園大学との業界研究イベント [2012.12]



座談会に参加して下さった皆さんしてやれば、面接とかで話ができるので良いと思います。自分の場合だと実家が旭川で、自転車です帰った経験がひとつの話題作りになって、そこから話が広がりました。教職課程の教育実習も生徒と関わった事とか、実習経験も、この企業に活きたと思えばアピールポイントになったかと思っています。成績やゼミについては、あまり聞かれませんでした。私は中島先生のゼミで簿記とかをやったので、金融系のところではすごく聞かれました。ゼミで習ったことと関連する業界だと深堀りされると思うので、注意した方が良いでしょう。
小原●北海商科大学は留学がしやすい環境にあると思うので、ぜひ留学を経験してほしいと思っています。私は面接の時も、短期留学をネタにいろいろと広げる事が出来ました。ぜひ時間があるうちにして欲しいと思います。私自身人見知りか直ったということ、自分の意見をはっきり言えるようなことがすごく身につく、就職活動に活かすことができました。
齊木●先に就職が決まった人を気にせず、自分だけは自分のことを信じて頑張るって欲しいと思います。
水野●貴重なお話ばかりですね。皆さん、本日はどうもありがとうございました。



北海学園大学との合同企業説明会 [2013.7]

Report 4 キャリア・ガイダンスと就職支援について

2015年3月卒業の学生の就職活動が12月1日に解禁されました。本学でも、さっそく今月から学内企業説明会のスケジュールが詰まっています。学生の将来は就職活動の成否に大きく左右されたため、本学では、早くから学生の就職支援のために北海学園大学との共同で、就職ナビサイト「ミナトコム」を導入し、多数の求人情報から職種別や勤務地別などの検索ができるようになっています。また、相談体制を強化するため、キャリア支援センターによる個別相談を実施しております。

既に3年生に対しては4月以降、就職活動の心構えや準備をはじめ、職業適性検査、SPI模擬試験、企業・業界の研究、インターンシップ制度など、就職に直結するガイダンスを毎月実施してきました。4年生には、フォローアップセミナーを開催し、逐次求人情報を開示し、個別の就職支援を積極的

に進めております。
こうした包括的な支援体制のほか教科履修単位の中に専門キャリアアップ科目（APQ）として情報管理論、旅行業務論、社会行政論、税務会計論、通商実務論、PAL（中国語、韓国語、英語）、職業指導などを配置し、実務にも役立つよう配慮しています。
就職活動を乗り切るにはまず、自分を知り、自分の熱意をいかに相手に伝えることができるかにかかっています。くれぐれも就職活動の流れに無自覚に乗ることは避けていただきたい。就職情報が多い中で、それに惑わされずに自分で納得がいくまで調べることが大切です。本学では就職支援に対して十分な体制を引いているので、自己の夢の実現に向けて、勇気と創造力を振り絞って目標に向かってチャレンジしていただきたいと思います。

（菊地）

OB・OG との学内業界研究イベント [北海学園大学との共催 2013.11.9-16]



写真1,2学内就活イベント「LIVE Voice」の全体オリエンテーションでは、企業の採用担当者、先輩社員・来年入社予定の先輩内定者があいさつを行いました。3企業別のトークタイムには、業界を代表する企業が参加、学生たちは、先輩社員・先輩内定者から熱心に話を聞いていました。



居住に適しており、比較的慣れやすいと思います。今までで特に楽しかったことは、友達の誕生日の度に誕生日会を開いたこと。そして山東大学が企画した留学生達の修学旅行です。私たちはこの修学旅行で南京、蘇州、杭州、上海に行きました。この旅行を通じて数人の韓国人と知り合い中国語を使って会話するという、なんとも不思議な体験もすることができました。しかしもちろん、新鮮な体験に包まれた日常全てが一番の思い出です。

全体を通じて得られたものはずばり視野の広さだと思います。違う国同士の差はもちろんですが、同じ日本人大学生の班の中でさえ習慣の差は存在します。他国の人々、他人と密接に触れ合う中で得られた視野の広さは、大学生のうちではなかなか得られないものだと思います。

●石見 綾子（観光産業学科4年）

私は1年生のときに、中国山東大学威海分校に交換留学生として半年間留学しました。自己紹介にさえ自信が持てない程の語学力での留学は戸惑うことばかりでしたが、毎日勉強し、中国人や留学生の韓国人と中国語でコミュニケーションをとることで毎日の生活に充実感を得ることができました。帰国後は中国語を使う機会が圧倒的に減り、生活に物足りなさを感じるようになりました。3年の春から中国語サークルの代表になり、再び中国への関心が深まっていたときに、札幌大学孔子学院の中国広東外語外貿大学へのサマーセミナーへの参加のお話を頂き、9月からの二週間サマーセミナーに参加しました。サマーセミナーには商科大の先輩や後輩なども参加しており二度目の中国だったので不安はありませんでした。広東外大の方々の案内で広州市を観光し、平日は毎日、中国語の授業があり、クラスには世界中さまざまな国からの留学生が居て、とても刺激的であり新鮮でした。留学生は積極的に話しかけてくれるので、気付けば学内にたくさんの友達ができていました。

1泊2日の香港旅行もとても楽しかったです。帰国後も広州の友達と毎日のように連絡を取り、今年の9月にもサマーセミナーに参加しました。友達との再会や、新しい仲間との毎日は本当に楽しく2週間では短いと感じるほどでした。中国の文化に触れ、さらにさまざまな国の文化に触れることができ中国語を学んでよかったと思っています。



香港旅行で

ゼミ訪問

観光産業学科では観光に関する幅広い専門的知識や技能を系統的、学際的に学習します。2年生後期（第4セメスター）からは、それらの習熟度や応用力をさらに高めるために観光研究ゼミナールが開講します。その中から佐藤博樹教授と原田房信教授のゼミナールを訪ねました。

1 原田 房信 教授

観光研究ゼミナール

本学は多くの専門キャリアアップ（APQ）科目を設け、資格取得を目指す学生を積極的にサポートしています。なかでも観光産業学科の学生が意欲を燃やす資格の一つに、「国内旅行業務取扱管理者」がありますが、その国家試験で多くの受験生が苦しむのが国内観光地理だといわれます。原田ゼミではこの難関科目の修得にチャレンジしています。



「国内旅行業務取扱管理者」

は旅行業法に定められた国家資格で、旅行業者は営業所ごとに1名以上選任することが義務づけられています。旅行会社などへの就職を希望する学生には、やはり取得しておきたい資格になります。原田ゼミに在籍するゼミ生は2年生が13名、3年生が10名の合計23名と大所帯。

国家試験の出題科目は「旅行業法及びこれに基づく命令」「旅行業約款、運送約款及び宿泊約款」「国内旅行実務」の3科目です。原田ゼミで学ぶ国内観光地理は「国内旅行実務」に含まれ

2 佐藤 博樹 教授

観光研究ゼミナール



多くの自治体が観光振興に取り組むなど、観光に社会的関心が集まっています。その要因の一つには、産業としてのすそ野の広さがあります。そこにはサービス業をはじめとしたさまざまなビジネス活動が含まれますが、佐藤ゼミはそれぞれの場面で対応できるマーケティング知識と、ビジネスデータ分析手法の修得を目指しているところに大きな特徴があります。

佐藤ゼミは毎回2部構成で展開されます。前半はテキストを利用した基礎知識や理論、後半はパソコンを前にエクセルやパワーポイントを使い、より実践的な情報活用手法を学びます。ゼミ生は2、3年生合わせて12名が在籍し、それらの修得にチャレンジしています。

ゼミ生たちが基礎知識の修得を目指すマーケティング理論は、企業のビジネス活動に不可欠なインテリジェンスとなっています。しかし、マーケティングの用語や概念は分かっただけでも、実務への応用に向けた具体的な理解には



原田ゼミのみなさん

ますが、例年、そこで出題される問題のおよそ半分は観光地理の分野です。大きな配点割合を占めます。しかし、解答で求められるのは全国の観光地・名所に関する地理的な知識はもとより、観光地にまつわる歴史的知識、各地のお祭りや年中行事など、広い範囲に及びます。受験生たちが苦しむ理由もここにあります。

「私のゼミはゼミ生の自主性を最も尊重します。それゆえ、テーマはゼミ生の意向に沿って進めます。調査・研究したり、年毎に異なることもあります。今年、3年生は就職を視野に入れ、考察力を養うために最新の観光に関する様々な情報等の資料を基に観光の動向に関する討議を中心に進めています。2年生は例年、地理を学びたいという希望が多く、今年の後期から国内観光地理を学ぶことを明確にし、国家試験（観光旅行業務取扱管理者）の国内観光地理と周辺の地域の状況



佐藤（博）ゼミのみなさん

難しさがあるのも事実です。佐藤ゼミが利用するテキストの1冊が、池上重輔「マーケティングの実践教科書」（日本能率協会マネジメントセンター）です。佐藤教授は「このテキストは多くの事例を取り上げ、それぞれについて分かりやすく解説しています。これによってマーケティングの基本全体を理解し、実践のレベルまで高めていくことが到達目標です」と言います。

ゼミの後半で学ぶビジネスデータ分析の実践的手法は、これらの応用ということができます。ここでは仮想データを実際にエクセルに入力。表計算、グラフ機能を活用したRFM分析、PPM分析、損益分岐点シミュレーション分析など、ビジネス活動に求められる目的に応じたデータ処理手順、結果の読み方などの能力獲得を目指しています。「専門科目として『コンピューター・リテラシー』の授業も受けていますが、ゼミはそれ以

等を学ぶことを主眼としています」と原田教授。3年生の白川元樹君は「ゼミの主役は学生と先生はいつも言いいます受け身になるなということだと思っています」とゼミの様子を語ります。

2年生のゼミでは第4セメスターの東北地方から始まり、第5セメスターの九州地方、沖縄までの北海道を除いた全国の観光地を巡るカリキュラムが組まれ、各都府県から取り寄せた観光資料、旅行に関する書物などを参考に、広い範囲での学習を目指しています。

第4セメスターからゼミ生となった2年生の中村砂織さんは、合格のため予備校にも通うという頑張り屋ですが、「ゼミで国内観光地理を出来るだけマスターしたい」と意欲的です。原田教授は「自分の進む道を早くから研究し、広い視野を持ち、何事も積極的に取り組んでほしいですね」と言います。

上にパソコンのスキルアップにつながっています」と第4セメスターからゼミに加わった2年生の森内崇史君。

利用するテキストのもう1冊に、敷田麻美ほか「観光の地域ブランディング」（学芸出版社）があります。これは「観光まちづくり」のポイントとなるマーケティングと地域のブランド化を、8つの成功事例をもとに分析し、具体的な戦略モデルとして紹介したものです。佐藤ゼミではこのテキストを題材として、パワーポイントを用いた資料作成とプレゼンテーションにも取り組んでいます。

その狙いを「成功要因や仕組みを分析・理解し、表現する能力を身につけることが大切です」と佐藤教授。3年生の田尾昂介君は「パワーポイントによるプレゼンテーションなど、実戦力が鍛えられます」と佐藤ゼミの魅力を語ります。

その後の中国生活でも、中国各地にある寺やモスク、教会といった宗教施設に足を運びましたが、どこも盛況で信者が順調に増えていました。日本の寺や教会で10代、20代の若者を目にすることは珍しいのですが、中国の宗教施設は、とくに都市部で若者の信者が目立ちます。

中国の研究機関の調査によると、中国の宗教人口はすでに3億人に達したという説もあります。逆に、マルクス主義、社会主義に対する「信仰」はほとんど失われたというのが現在の中国です。

現代中国における宗教は、1980年代初めの改革開放と同時に研究が始まった若いテーマでもあります。

宗教人口の広がりや、経済の発展や社会主義思想の褪色とどのような関係にあるのか、中国の過去の歴史に登場する太平天国のような宗教団体のように、執政党を土台から揺さぶるような作用を果たすのか、逆に社会的な不満を宗教が吸収することで矛盾の緩和に役立つのか――。

研究調査においては、特定の宗教団体とその信者グループを長期的に追跡し、こうした問いを考えていきます。中国社会で復活した宗教は、この巨大な国家をどのように変えていくのか、関心はつきません。

あったことを理由に軍人恩給などを受けられず、非常に貧しい生活を送っています。私は友人の中国人ジャーナリストとともに福建の農村に赴き、そういった元兵士の取材を行いました。

福建はもともと、山がちな地形で耕地が少ない割に人口が多く、豊かではない地域です。文字通り爪に火をともしような暮らしを送っていた老兵士の農家を訪ねた際、その寝台の枕元にあったのが中国語の聖書でした。

訊くと、村民の過半数がカトリック

経由でチチハルに入ったのが、私の中国経験の始まりです。

黒土の大地を一晩かけて汽車で横切り、チチハルに到着しました。釧路湿原とよく似た風景の広がる湿原では、北海道のタンチョウと比べると頭頂部の赤色があせたような、しかしどうみてもタンチョウが暮らしていました。黒竜江の省都ハルビンに戻れば、釧路や函館とよく似たロシア正教の教会が町の中心部の広場にどっしりと建っていました。

Report 5 研究の1冊 ―― 中国の宗教

■ 佐藤 千歳 准教授

駆け足の団体旅行でしたが、今の国境線が引かれる前の北海道から西側に、大陸に向かって広がる世界に関心を持つきっかけとなりました。その後、地元選出の国会議員をめぐる事件のあおりを受けて、釧路とチチハルの姉妹都市構想は立ち消えになってしまいましたが、私は北海道に戻り、働きながら中国語の勉強を始めたのです。

研究テーマである「中国の宗教」に出会ったのは、研修生として北京の人民日報社に勤務していた2005年のことです。これも偶然の出会いでした。

中国の福建省や雲南省には、日中戦争で蒋介石の率いる国民党兵士として戦った高齢の元兵士たちが現在も暮らしています。彼らの大半は、国民党で



関東地方から北海道に移り住んだのは13年前の春になります。最初の住まいは、道東釧路の春採湖という小さな湖を見下ろす高台にある会社の独身寮でした。以来、約2年間の東京勤務と4年間の北京滞在をはさみながら、北海道を拠点に生活しています。

中国との付合いは、この釧路時代にさかのぼります。当時の私は、北海道新聞釧路支社の駆け出し記者でした。

外国といえバズロシアとの交流が浮かぶ土地柄の道東ですが、ひょんなことから中国行きの話が舞いこみました。当時の釧路市長が、中国北部の黒龍江省チチハル市との姉妹都市交流を構想したのです。チチハルには、釧路湿原とよく似た気候条件でタンチョウも暮す湿原があり、「タンチョウが結ぶ日中友好」が合言葉でした。職場の先輩は、「ヨーロッパやアメリカなら出張に行きたいが、中国の田舎などまっぴらごめん」と、市長訪問団の同行取材を私に任せました。この市長訪問団に加わり、2002年夏にハルビン

Topics 6 開発政策研究所の活動再開について

2006年4月以来活動を休止していた本学の開発政策研究所（森本正夫所長）が本年4月より活動を再開しました。再開にあたって新たに副所長として大内東教授、研究員として7名の本学教授が着任しました（併任）。
4月以来、これまで、(1)北見研究会、(2)講演会、(3)タイ国観光研究事情調査、(4)第1回研究所セミナー開催等の活動を行ってきました。これらのうち、(2)については、学報vol.14号で紹介されていますので、本号では(1)北見研究会について紹介します。今後、他の活動についても順次紹介していきます。
第1回研究会では、森本所長をはじめ、本研究所研究員、学術団体などの関係者、オホーツク地域の産業界、行政担当者などが参加しました。大内副所長の司会のもと、東アジアとの関連において北海道観光、オホーツク観光

はどうあるべきか、その問題・原因・課題・戦略という全般的な議論が参加者によって行われ、第2回以降の検討のために必要な共通認識を確認しました。（大内）



6月14日に行われた北見研究会

Report 6 サークルリーダー研修会

8月8日(木)～9日(金)の日程で第3回サークルリーダー研修会が開催されました。1つ目のプログラムは、北海道教育庁石狩教育局教育支援課長の小林為五郎先生によるご講演「リーダーが果たすべき役割」でした。先生は「リーダーたる所以について」から始め、「意思決定の方法」、「コンセンサスの心得」へと分かり易くお話を進められました。学生からの質問には、「リーダーは的確な判断を下す、あるいは明確な指示を出すことが求められている」とお答えになりました。次いで、班ごとに『課題シート』を使用しリーダーにとって必要なことについて議論した後、先生が重要なポイントを

列挙しつつ説明してくださいました。2つ目は、同局教育支援課社会教育指導班主査の阿部隆之先生による「コミュニケーショントレーニングの指導」でした。まず『ジャンケン列車』ゲームにより次の一手の決定方法を体験しました。またグループ内の意思疎通の方法や、10人11脚ゲーム応用し人の話の聞き方を学ぶ多彩なトレーニングが行われ、コミュニケーションの大事さを経験させていただきました。次いで、班に分かれ「活性化の方策」についての議論が行われて、翌日にその結果が発表されました。
今後、学生諸君がリーダーシップやコミュニケーション能力を発揮し、

Topics 7 商学科合同特別講義

11月19日、商学科合同特別講義に国際業務経験の豊富な札幌国税局課税第二部長栗原克文氏をお招きして「経済社会の変化と税」の講演が行われました。最初に歴史的視点から、市民の重税に対する米のボストン茶会事件、フランス革命、日本の農民一揆、反対に楽市楽座、エコ減税による経済活性化など具体的な市民と税の事件を紹介されました。
本論では、明治(1870)から現代(2010)までの税収構造変化をはじめ、明治から2110年まで240年間の人口推移では2008年をピークにその後人口減少に転じていること、バブル崩壊以後のGDPは500兆前後で横ばい状況にあること、経済社会変化をマクロ的に見た財政と社会保障給付における今後の課題などを具体的に話された。次にIT技術がもたらした高度情報化の社会



札幌国税局栗原克文氏による講義
変化に対しては電子商取引への対応、e-Taxを推進しているとのこと。最後にグローバル化経済社会においては租税条約に基づく国家間における情報提供協力体制の整備を促進させているほか、発展途上国に対して租税制度のノウハウ提供や人的技術的な支援を行っているなど、大局的な社会経済の変化を踏まえた有意義な講義をいただいた。
学生へも広い視野で独創性を研鑽されるよう示唆をいただいたことが印象的であった。（中島）



サークル活動の活性化に役立てることを期待します。さらに研修会が継続され飛躍することを願っています。(田辺)

写真1 講師の先生方と参加学生・教員・職員による集合写真 2 3 4 班ごとに議論 5 ジャンケンを使ったコミュニケーショントレーニング

北海商科祭 [2013.9.21]・後期体育祭 [2013.11.16] photo gallery



写真1～15 北海商科祭、16～27 体育祭

Report 7 2013年度後期公開講座開催

「東アジアの動向と世界」が開催される

北海商科大学公開講座を今回は上記総括テーマの下、下記要領にて開催しました。

- 日時：2013年10月19日・11月2日・11月16日・12月7日・12月14日（全5回、10：30～12：30）
- 場所：北海商科大学8階会議場
- 参加対象：一般市民（含む学生）
- 入場無料

本学の公開講座は平成19年度より、前期・後期の年2回で開催し、本年度で7年目となりました。その意義は「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の特色ある教育に照らして東アジアの知的関心を高めることにありま

す。幸いにして毎回多数の参加者（各80名程度）があり、恒常的に参加されている方も多くなっております。今期は、中国の地方行政制度の課題や韓国の政治・経済・社会の考察、またアジア太平洋の経済協力問題や日本の観光振興に係わる課題を個別テーマとして世界を見据えた東アジアの動向について検討する内容としました。本講座が単に知識の習得にとどまらず、日本を含めた東アジア諸国間の人々の心にまで浸透した共通認識・相互理解および交流へとつながることを期待しています。本講座が地域社会への貢献とあわせて、そうした期待に応える一助となることを念じて今後とも取り組んでいきたいと考えております。これからも、これまでに増して多くの方々のご参加を期待しております。（伊藤）

2013年度後期のポスター



写真1 第2回講師金沢星陵大学大藪多志教授(中央)を囲んで



Report 8 商科大研究生インタビュー ● 嶋田ブルーノ 静也さん



国際社会に関われた教育を実践する本学では、日本とつながりの深いブラジルからの留学生も学んでいます。日系ブラジル人4世で北海道にルーツをもつ研究生の嶋田ブルーノ静也さん（25歳）に、日本に対する思いや将来の夢を訊きました。

「僕の家族がブラジルに渡って今年で80年になります。滝川市の開拓農家だった曾祖父が1933年、船でブラジルに行き、コーヒー園の労働者になりました。言葉も習慣も異なる土地で、何度も日本に帰りたいと思ったのですが、『ここまで来たからにはがんばらないと』と自分に言いきかせて必死に働いたと聞いています。その後、『日本人は真面目でよく働く』という信頼がブラジル社会に広がり、曾祖父は念願の農園を手に入れ、祖父、父と農園を引き継いできました。日系人の集まる中部パラナ州の果樹園が、僕の実家です。ブラジルと日本の文化が交じり

あう環境でした。小学校から高校卒業まで、午前中はブラジルの学校、午後は日本人教師が日本語で授業する“日本学校”に通いました。家の食事はブラジル風と和風が混ざっていて、言葉は「コロニア語」というポルトガル語に日本語が交じった独特のものでした。

パラナ州立大学に在学していた2008年、群馬県の工場で7ヶ月ほど働いた経験から、日本が好きになりました。今回の来日は2度目で、来年春まで1年間、研究生として経済と経営の勉強をしています。日本とブラジルの貿易について論文をまとめ、ブラジルに戻ったら日系企業で働きたいと思っています。自分のルーツである日本と母国ブラジルを結ぶ仕事をしたいのです」（佐藤）



ブラジルにある嶋田ブルーノさんの実家の農場

Topics 8 2013年度浅羽祭举行/同窓会総会開催

学校法人北海学園主催による2013年度浅羽祭が10月22日に執り行われました。浅羽祭は本学園創立功労者である浅羽靖先生の名を冠し、この1年間に逝去された北海学園教職員ならびに学生・生徒の御霊を、ご遺族・関係者参列のもと慰霊しているものです。

また2013年度北海商科大学同窓会総会が10月5日に札幌パークホテルで行なわれ、約100名が参加しました。卒業後間もない同窓生も参加し旧交を温め、それぞれの近況を伝え合うなど、会場は終始なごやかな雰囲気につつまれていました。

2013年度同窓会懇親会



浅羽祭参列者の皆さん



医務室から～『二十代の健康』⑦「くしゃみ、鼻水、鼻づまり」を治す 医務室 二瓶 妙子



毎年、10月初めごろから「くしゃみ」「鼻水」「鼻づまり」の症状を訴えて医務室を訪れる方が多くなります。「アレルギーかも」「寒かった」「寝不足が続いていた」など、理由は様々です。大抵、熱はなく「だるい」「頭」「のど」が痛いなどの症状も合わせて出よう。これは、典型的な「かぜ症状」でしょうか。市販薬で治ったという方もいる一方で、「病院で薬をもらって2週間のんでいるけれど全然効かない」という方もいます。

では、病院でどんな薬を出してもらったの？と聞くと、「抗生物質」（抗生剤、抗菌薬）という方が意外に多いです。「抗生物質」は細菌感染症には効果がありますが、「かぜ」や「インフルエンザ」などのウイルス感染症には効きかないので、折角高いお金を払ってのんでいた薬も「的外れ」だったということになります。「かぜ」「インフルエンザ」に抗生物質の処方という、念のための“おまじない”のような治療は、“2週間薬をのみ続けたけどさっぱり効かない”となりかねません。（効いていな

い抗生物質を2週間も出し続けること自体おかしいのですが）

受診する側も医者にすべてを“お任せ”するのではなく、「何に効く薬なのか」「これでいいのか」程度は聞いていいのでは…。薬は、症状を「抑える」には効果を発揮しますが、根本を「治す」ことにはなりません。「かぜやインフルエンザの治療薬」を発見したなら、それはノーベル賞ものともいわれています。かぜやインフルエンザを治すことができるのは、いわゆる人間の「体の力」「免疫力」なのです。ゆっくり休んで「食べたい」と思うもので胃腸にやさしく、負担のない食事を摂り、体に「元氣」を与える。それが、最も効果的な方法ではないでしょうか。



Info 2 今後の行事予定

2013年	
12/26(木)	振替講義日(月曜日分)
12/27(金)	冬季休業開始
2014年	
1/8(木)	冬季休業終了
1/9(金)	講義再開
1/18(土)・19(日)	大学入試センター試験
1/25(土)・26(日)	大学入試センター追・再試験
1/30(木)	卒業論文提出期限
2/3(金)	後期講義終了
2/4(土)	学年末休業開始
	後期成績開示
	成績・採点異議申し立て受付開始
2/5(土)	成績・採点異議申し立て受付終了
2/8(日)	一般入学試験
2/21(金)	一般入学試験合格発表
3/1(土)	卒業生発表
3/4(土)	後期修学指導面談②(予定)
3/18(土)	卒業証書・学位授与式(卒業祝賀会)
3/19(土)	学年末休業終了
3/20(木)	新3年次ガイダンス
	新2年次ガイダンス
3/24(金)	新4年次ガイダンス
3/24(土)・25(日)	新2年次履修登録
3/25(土)・26(日)	新3年次履修登録
3/26(土)・27(日)	新4年次履修登録
3/28(金)	履修登録訂正日(全学年)